

## CONTENTS

- 私学研究 ① ● 付属校はどこへ行くのか? ..... 2
- 私学研究 ② ● 男子教育の意味はどこにあるか? ..... 7
- 高校入試 ● 都内公立中3年「志望予定調査」から分かること ..... 12
- 大学入試 ● <2011年入試変更点速報>センター変更の前年で動きは少ない ..... 20

## 今月の夕回一ズアツプ

## 人は、「思春期の文化」を持ち歩く

昨年末、小学校時代のクラスメートから久しぶりに電話があり、「安田君、〇〇君とは高校が同じではなかった?」と聞かれた。「〇〇君とは幼稚園から高校まで同じだけど、なぜ?」と答えたところ、〇〇君は去年の12月末に亡くなっていて、「有志で1周忌を兼ねて墓参りに行こうかと考えているんだけど、行かないか…」という話であった。

小学校の同級生は女性を含め8人ほどが参加し、墓参りの後、〇〇君のお母さんを囲んで会食した。当然、昔の話が出る。

瀬戸内海の小島からの転校生がいなくなり、授業そっちのけで皆で捜し歩いたこと。放課後は毎日のように野球が出来る空き地を求めて皆であちこち放浪したこと。夏の夜、校舎の壁に白い大きなシートが垂らされ、そこに『ビルマの豎琴』(安井昌二主演の作品)が映されたこと。小掛照二が三段跳びで世界新記録を出し、男は誰もが三段跳びに挑んだこと……。昭和20年代の終わりから30年代のはじめ、まだ日本は貧しい時代だったが、皆で思い出してみると結構いろんなことがあり、豊かな時代だった。それに実によく皆で一緒に行動していた。

こんなことがあり、昨夏に大病した高校時代のクラブの仲間の見舞いに、同期3人と行った。いろんな話が出た中に、大病した友人が外資系メーカーのエンジニアでありながら、会社員時代に会うと、高校時代の読書しながらギボンの『ローマ帝国衰亡史』を読んでいたことが出た。「そういえばお前、ビジネスマンなのにいつも『聊斎志異』とか変なのを読んでいたよな……」。

私は自分が教育関連の仕事をしているせいで自分が特に中高時代を引きずっているのかと思っていたが、ここにも「思春期の文化をずっと持ち歩いている人間がいた」。

思春期をどのような文化環境で過ごすのか。その後の人生に大きく影響することを強く感じるこのごろである。

# 付属校はどこへ行くのか？

早稲田大学高等学院中学部、中央大学附属中学校の開校、横浜山手女子の中央大学の付属校化、横須賀学院と青山学院大学との連携、玉川聖学院・捜真女学校・横浜英和女学院と明治学院大学との連携……と、このところ付属校をめぐる話題が非常に豊富だったこと、関西でも多くの有力大学が付属校の強化、提携校の拡充に乗り出していることから、今年度は付属校に関するマスコミ報道が非常に多かった(私(安田)自身も新聞・雑誌・ラジオ等で何度か取材を受けた)。

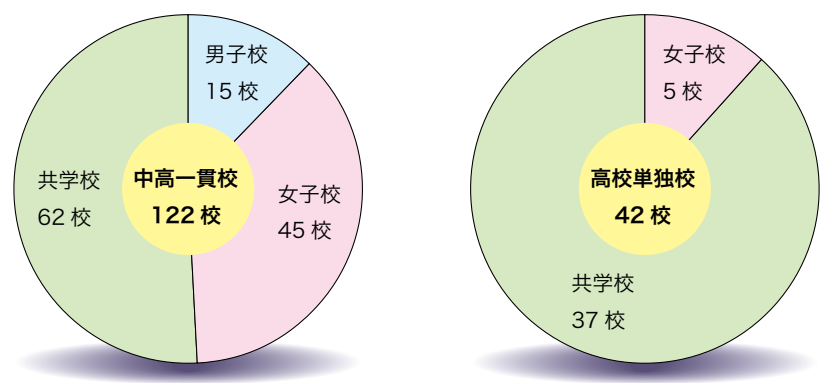
入試のシーンにおいても、ここ数年、中学入試・高校入試とも付属校志向が続いている。このように、いま付属校は注目を集めているが、その陰で安心できない事態が忍び寄っているのではないだろうか。

2010年度の中学入試の模試の志望状況を見る限りでは、付属校志向がハッキリと止まったかに見える(この原稿段階では東京の出願はまだ始まっていないため、こうした表現にとどまるのだが)。そこで今回は、付属校にスポットを当ててみた。

## 上に大学がある学校は首都圏だけでも 164 校

まず、どのような関係であっても上に四年制大学がある学校数を調べてみたところ、首都圏(ここでは茨城県南部も含めた)には164校もあった。これを学校のタイプ別に分けると、下の円グラフのようになった。

■上に大学がある学校のタイプ別校数



慶応義塾、慶應女子、慶應志木は普通部・中等部があるので中高一貫校に分類、中大附属、早大高等学院も中高一貫校にカウント。白梅学園清修・白梅学園、土浦日本大学中等教育学校・土浦日本大学高校については別々にカウントしてある。

まず目に付くのは、高校単独校で男子校が1校もないことだ(先述のように早大高等学院、慶応義塾、慶應志木を中高一貫校とみなしたことによる)。こうしてみると、ちょうど中高一貫校が3分の2、高校単独校が3分の1になっている。次に、大学が共学のためもあるだろうが、共学校の比率が高いことが分かる。中高一貫校では49%、高校単独校では88%にも及ぶ。全国の中学校に占める共学校の比率

は59%、高校に占める共学校の比率は68%であるから、中高一貫校はそれほどでもないが、高校単独校の場合はきわめて高くなっている。高校単独校の生き残り戦略の一つとして、大学の冠を戴くというケースがあり、それが影響しているのだろう。高校単独校の女子校5校のうち、大学が共学なのに高校が女子校であるのは、桜華女学院、白梅学園、植草学園大学附属、法政大学女子の4校(日本女子体育大学附属二階堂は大学も女子)。

## 案外少ない「正統派」付属校

上記の学校の中には、ほぼ全員が併設大学に進んでいるところから、ゼロのところまである。「付属校」というときに、多くの人には以下のようなイメージを持っているのではないだろうか。

1. 中学・高校に入学すれば、そのまま大学までエスカレーター式に進学できる。
2. 併設の大学に優先的に進めることはもちろん、希望すれば外部の大学へも進むことができる。
3. 大学受験の勉強をしなくてすむから、部活や趣味に思いっきり打ち込めるなど、学園生活が楽しい。
4. 高校在学中に併設大学の授業も受けられ、併設大学に進んだときにはそれが単位として認められる。

少なくとも上の大学へ内部進学する卒業生の方が多くなければ、「付属校」といえないのではないかと思い、50%以上が上の大学に進んでいる学校を調べてみた(資料：サンデー毎日特別増刊『高校の実力』2009年度版)。

### ■「正統派」付属校

	男子校	女子校	共学校
中高一貫校	学習院、日大豊山、明大中野、立教池袋、早稲田、慶応普通部、法政二、立教新座	学習院女子、女子美術大付、聖心女子学院、日大豊山女子、立教女学院	青山学院、慶応中等部、国士館、成城学園、創価、中大附、帝京八王子、東海大高輪台、法政大学、明大中野八王子、明大明治、早稲田実業、早大高等学院、慶應湘南藤沢、東海大相模、日本大学、千葉日大一、東海大浦安
高校単独校		法政女子	駒澤大学、専修大附、中央大学、中大杉並、東京音楽大付、日大桜丘、日大鶴ヶ丘、明治学院、東海大望洋、早大本庄、岩瀬日大

なんと3分の1にも満たない43校しかなかった。今や、上に大学があっても卒業生の半数以上が進んでいる「正統派」付属校はわずか26%しかないのである。上の校名を見ていくと、ほとんどが学部・学科が限定されない総合大学の付属校であることが分かる。しかも有名大学ばかり。逆の言い方をすれば、大学が有力な総合大学でなければ卒業生の多くは外部の大学に進み、上の大学には進まなくなっているということである。

---

## この5年間の変化は？

こうした減少はここ数年のことなのか。そこで、5年前のサンデー毎日特別増刊『高校の実力』2004年度版を引っ張り出してみた。5年前には50%以上が上の大学に進んでいて、現在はそうではない学校を調べたところ、以下の校名が挙がった。

### ● 5年前は50%以上が進んでいた学校

芝浦工業大学、昭和女子大附、大妻嵐山、工学院大附、玉川学園、日大一、日大藤沢、東洋大牛久

東洋大牛久以外はみな中高一貫校である（日大藤沢はまだ高校単独校時代の卒業生であるが）。

5年前に既に50%以下で、さらに大幅に減少した学校には以下の学校があった。

跡見学園、大妻、大妻中野、川村、共立女子、共立女子第二、白百合学園、文化女子大杉並、聖徳大附聖徳、淑徳、淑徳巣鴨、東京電機大学、東京農大一、日大二、日大三、神奈川大附、関東学院、関東学院六浦、芝浦工大柏、麗澤、東京農大三、拓殖大一、東海大望星、中央学院大中央、千葉商科大付、日大習志野

やはり拓殖大一以降の5校を除く大半が中高一貫校で、中高一貫校ほど併設大学離れが進んでいることが分かる（東京農大三はまだ高校単独校時代の卒業生であるが）。

以上のほかにも大幅ではなくても5年前より比率が下がっている学校が圧倒的に多く、上昇している学校はごく少なかった。

2004年には50%以下だったが、2009年には50%を超えたという学校は国士館、明治学院の2校しかない。このほかで、上の大学に進む比率が大きく増えた学校は以下の学校であった。

### ● 上の大学に進む比率が5年前から10%以上増えた学校

香蘭女学校、東京女学館、青山学院、共栄学園、帝京八王子、明大中野八王子、東海大浦安、駒澤大学

一方、あまり変化がなかったのが(5%以内の変動)、以下の学校であった。

### ● ほとんど変化のなかった学校

学習院、東京都市大付、明大中野、立教池袋、早稲田、早大高等学院、学習院女子、恵泉女学園、実践女子学園、聖心女子学院、千代田女学園、東京家政大附、日大豊山女子、文教大付、武蔵野女子学院、鎌倉女子大、相模女子大、日本女子大附、聖徳大附、桜美林、国学院久我山、国士館、成城学園、創価、玉川学園、東海大菅生、日本工業大駒場、明大明治、明治学院東村山、立正、早稲田実業、慶應湘南藤沢、千葉日大一、獨協埼玉、慶應女子、日本女子体育大附二階堂、國學院、国際基督教大学、専修大附、中央大学、中大杉並、中大附、日大桜丘、日体荏原、慶応義塾、慶應志木、秀明英光、早大本庄、岩瀬日大、土浦日大、東洋大牛久

5%以内であっても減少傾向の学校数の方が多かった。また、高校単独校が比較的多いことが特徴だ。慶應女子、慶応義塾、慶應志木は冒頭では下に中学がある

---

ということで数字上は中高一貫校にカウントしてあるが、校名を出す場合には中高一貫校の間に入れることは抵抗があるので、ここに記入した。

\*

\*

こうしてみると、「付属校」はどんどん「非付属校化」が進んでいるという現実直面する。ここまでは、数字的な面に着目してきた。次からは、大学進学の内容面について考えてみたい。

## 『元本保証』という保険があることで選択？

以前は、付属校から外部大学を受験する場合には内部進学の特典を放棄することが一般的であった。下記のaのようなケースは古くから認められていたが。

**a. 併設大学にない学部・学科を目指す場合のみ併設大学との併願を認める**

これが、内部進学の特典を保持したまま

**b. 国公立大学受験の場合のみ認める**

へと広がり、いまでは

**c. 制限を付けずに外部大学受験を認める**

学校が多くなってきている。

こうなってくると受験生・保護者は、こうした学校なら「進路選択の幅は狭まることはない」し、むしろ「浪人する心配がない」、「全落ちのプレッシャーがなく外部大学にチャレンジできる」といったメリットを感じて選択するようになる。昨今付属校受験者が増えている背景にはこうした外部大学受験の内容面での変化が大きいと思われる。

私はこれを、『元本保証』の心理といっているのだが、これがどういう現象を生んでいるのかといえば、付属校を選んでいながら、それほど積極的に併設大学への進学を望んでいるわけではなく、できれば他大学に進ませたい、「併設大学はあくまで『元本保証』として保険をかけておきたい」という保護者を増やしている。

3、4のような付属校の魅力を感じてというよりは、実質的には進学校と同一線上に捉えられているということになる。

80%、90%が上の大学に進む学校なら、問題ないだろうが、それ以下の場合には受験生・保護者の側には2のニーズが高いと見るしかない。特に50%以下の場合、自分のところは進学校と割り切るしかないだろう。現に、女子大の付属校の多くはそうした「性格転換」で生き残ってきた学校が多い。このとき、当然ながら、教師には進学校の教師に負けないだけの学習・進路面での指導力が求められる。

従来型の付属校の教師でいられるのは、80%以上が上の大学に進む学校の場合だけだと思った方がいい。「うちは付属校だから、外部大学を受験したかったら、自分で予備校で勉強してくれ」はもう通用しないのである。受験生・保護者は進学校と同じことを望むのである。

より厳しいのは、進学校ならどの大学に進学しようが、ある部分自分の責任という意識になってくれる。が、『元本保証』という心理で入ってきている場合には、

---

併設大学という1つの「ものさし」が存在してしまうのだ。併設大学に推薦されず、他大学受験して結果的に進んだ大学が併設大学より明らかに世間的な評価が低かった場合、付属校への幻滅はどうしても進学校より強くなる。このことはこれまであまり論じられていないが、これが今後の付属校の課題になるのではないだろうか。

もちろん当初から併設大学に進みたい、進ませたいという本来の付属校志向の受験生・保護者もいる。こうした両方の生徒を共存させて指導しなければならない。「併設大学進学コース」と「外部大学受験コース」に分けている学校もある。それも、国公立文系・理系、私立文系・理系となるから進学校以上に厄介である。

## 学費が高いというイメージもマイナス

次に厄介なのが、学費が高いというイメージだ。実際、学費の高額校は軒並み付属校である。青山学院、慶應系、学習院系、成城学園、玉川学園……。2010年中学を開校する早大高等学院もそのイメージを一段と強固なものにした。

経済状況がお先真っ暗な中、これはきつい。2010年入試に向けての付属校敬遠の中には学費の要素が大きいと思われる。いま保護者は、中高6年間、大学4年間、10年間も賃金を安定してもらえないという自信がないのである。

教師陣の指導面だけではなく、経営的にも学費の抑制を考えていかないと、付属校は一部の富裕層をターゲットにする学校になってしまう。

\*

\*

ここまで、付属校へ警鐘を鳴らすことばかり書いてきた。が、付属校が本来持っている魅力、

- ・併設大学との深い関係から様々な面で大学を活用した教育ができること。ほとんどの場合大学の図書館とLANでつながっているから膨大な蔵書を利用できたり、グラウンドや体育設備も使えたりと、中・高と比べてはるかに規模の大きい大学の施設を利用することができること。
- ・学習面では、併設大学の教授の特別授業があったり、高3では大学の講義を先取りして受けられ、大学入学後はそれが単位として認められたりと、「高大連携教育」によって大学の学問にふれ、幅広く教養を深められること。進学校が、どうしても大学受験を意識した学習をしなければならないのに対し、付属校は本質的な勉強ができ、1つのテーマについて深く探究することができること。
- ・部活動などでは、大学生から指導を受けられることもあるし、大学卒業後の進路についても、大学の先輩たちから話を聞く、といったキャリア教育面でもメリットがあること。

などを、もっとPRしていけば、『元本保証』という安心感ではない、もっと前向きな選択をしてもらえるのではないだろうか。

\*

\*

ご自分の学校がどのような「性格」で存続していくのか、付属校志向が止む2010年をターニングポイントとして、この機会に今一度考えられてはいかがだろうか。

# 男子教育の意味はどこにあるか？

## ～男女の違いを踏まえた男子教育の必要性～

### 1. 男女で学力に違いがあるか

男性脳と女性脳があるという。昔から男子は理数系が得意で、女子は言語能力に長けている、などと言われているが、この原因は男性と女性の脳の発達部位の違いが原因である、という説である。

実際、学習到達度の男女の違いについては、「OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 2006年」で、

- ・ 数学的リテラシーでは男子が女子より高いのは35か国で、日本でも男子が女子より20点高く、統計的な有意差がある。
- ・ 読解力の平均得点は、日本は女子が513点、男子が483点で、調査に参加したすべての国で女子の方が男子よりも統計的に有意に高い。
- ・ 科学的リテラシーは、20か国で男女に統計的な有意差があり、8か国は男子が女子より高く、12か国は女子が男子より高い。日本は男子が女子より3点高いが有意差はない。しかし、日本を含む大半の国で「現象を科学的に説明すること」は男子が、「科学的な疑問を認識すること」は女子が高く、有意差がある。

となっていて、科学的リテラシーについては分野や国情による相違はあるものの、数学的リテラシーと読解力については男女に違いがあることが指摘されている。

また、国内のみの調査では、いささか古いが、国立教育研究所が1975年に行った「生涯教育の観点からみた学校教育課程の評価に関する基礎的総合的研究」のデータに基づいた分析があり、学習到達度総得点の男女別平均で、

- ・ 小学校・中学校・高校の国語と、高校の英語は、それぞれ女子が男子より有意に高成績である。
- ・ 中学校・高校の社会と理科は、それぞれ男子が女子より有意に高成績である。
- ・ 算数・数学と中学の英語、小学校の社会と理科は男女に若干の差は見られるものの有意差はない。

という結果だった。(『高校教育展望』1977-9)

また、1997年～2005年と、比較的近年の調査結果では、中学校での卒業学年による定期テストの得点傾向の違いについて(サンプル数が少ないが)、

- ・ 英語の得点に男女差がある卒業学年の場合、一般的に英語は女子優位のケースが多く、観点別評価の言語に対する知識・理解において女子が優位、社会・数学・理科では男女差が無い。
- ・ 英語の得点に男女差がない卒業学年の場合、社会・数学・理科では男子が優位になる傾向がある。
- ・ 国語についてはどちらの卒業学年の場合でも、一貫して女子優位の傾向がある。

---

と指摘された。(北海道英語教育学会 HELES JOURNAL Ⅷ)

必ずしも国語力＝読解力ではないが、これらの結果から女子の国語力・読解力優位は間違いないし、中学に比べて内容が高度で読解力の水準が高くなる高校の英語も、女子優位と言って良いだろう。

中学校での定期テストの得点傾向は、男子の立場からざっくり言えば、「英語が苦手な男子が多い学年は、社会・数学・理科で男子は女子をリードすることができず、男子の英語力が女子と同レベルの学年は、社会・数学・理科で女子をリードすることができる」ということだろう。この調査は、英語を基準にまとめたもののため、国立教育研究所の「中学校・高校の社会・理科で男子優位」と定期テストの得点傾向の整合がとれるかどうかは判断できないが、社会や理科が暗記教科と言われがちで、中学校の定期テストでは思考力型の出題をあまり増やすわけにはいかず、「コツコツ暗記すればそれなりに得点できる」ことの影響も大きいと考えられる。

また、PISAでは数学的リテラシーが男子優位となっているのに、国立教育研究所のデータでは男女に有意差はない。中学校の定期テストでは、国語は英語に関係なく常に女子優位なのに、男子優位のイメージがある数学は必ずしもそのようになっていない。こちらも出題内容の影響が強いのだろう。「教科としての数学」と「数学的リテラシー」の違いである。PISAでは思考力・分析力・推論などを踏まえた問題解決型の出題が多いのに対し、定期テストなどではどうしてもパターン化した出題が多くなりがちなのだろう。思考力や問題解決能力とは異なり、これらはそもそも男女の違いを検討する以前に、類題練習を確実にこなしているかどうかを言うからである。

こうして見ると、学力(定義については議論がある)には男女で違いのある分野とない分野があるようだ。やはり読解力の分野では女子が男子よりも優位にあり、それが英語力にもプラスに作用するケースが多いこと、理数系の発想、思考力や問題解決能力といった分野では男子が優位になるようだ。もちろん、「平均的に見れば」の話であって、実際には理数系でバツグンのセンスを発揮する女子もいるし、すばらしい読解力を身につけている男子もいる。これらの力のどこが、男性脳・女性脳のような生物としての生来の性質によるもので、どの部分が社会的・文化的土壌の産物なのかは諸説あり、また、脳の構造に違いがあっても、生徒個人の理解力や成長が、脳の構造の違いに影響を受けるかどうかは別問題、という考えもあるだろう。しかし、男女のどちらかが優位になる分野が、100%社会的・文化的土壌の産物であったとしても、中学・高校に入学してくる生徒たちは、入学以前の12年間なり15年間の教育や家庭環境、社会的な刺激に漬かった状態で入学するわけだから、「生徒たちをより伸ばす」観点から、男女の違いをもっと考えても良いだろう。

## 2. 「性別よりも学習姿勢」の分野もあるが

一方、教科の枠にとらわれずに考えると、パターン練習やコツコツ学習を進める分野の学力は、生来の男女の性質に起因するのではなく、学習姿勢や習慣の影響が大きい。にもかかわらず、男女に違いがあるとと言われることが多い。共学校でよく

---

聞かれる、「女子は真面目でしっかり勉強する生徒が多い。それに比べて男子は…」といった声だ。もちろん男女の発達段階や育てられ方の違いが大きな原因だ。

体格にしても精神的な成熟度にしても、女子の成長が早く、特に中学校ではその差が顕著である。その分勉強に対する自覚も高い。また、女子は素直が良い、コツコツ勉強するのが良い、といった育てられ方で、男子よりも学習習慣がついているケースも多いのだろう。また、男子はスポーツに熱中していれば、勉強がおろそかになっても大目に見てくれる、といった社会風土も影響している。遅れをとった男子の中には、成長とともに女子に追いつくケースもあるが、中には積極的な女子に負けてしまい、成長へのステップを掴みきれないままずると中学・高校生活をおくる生徒も出ているだろう。

今から半世紀前、つまり戦後の教育改革で共学が開始されてから約10年を経た段階での山口県中学校長会の調査によると、

- ・ 校長および教員対象の調査で「共学で男女とも勉強に真剣になった」35%、「遠慮して消極的になった」31%、「別に関係ない」31%だが、生徒調査の結果から「消極的」は男子生徒にその傾向が強いと思われるため、指導に工夫を要するのではないか。
- ・ 教員対象調査で「共学によって男女の学力に変化は特になし」が半数弱、「女子の向上が著しい」が38%、男子については効果がほとんど認められていない。
- ・ 保護者対象調査で「共学で男子の学力が低下してきた」が圧倒的多数。
- ・ 生徒調査で「男子が横暴になり、女子をいじめ、女子がいじけてくる」「男女対立がある」が多い。

となっている。（『教育調査』1959-3）

共学で「女子の向上が著しい」や「男子の学力が低下してきた」については、男女を相対的に捉えた回答が多いと思われるし、時代を考えると男子校の旧制中学と女子校の旧制高等女学校のカリキュラムの違いが尾を引いているかもしれないが、生徒調査による共学の短所として「男子が横暴になり、女子をいじめ、女子がいじけてくる」といった回答が多かったにもかかわらず、実態としては元気な女子の前で消極的になる男子が出ていること、男子に対して工夫した指導の必要性について指摘している。消極的な男子のすべてではないだろうが、学習面で課題がある生徒は少なくないと思われる。この半世紀前の調査結果は、現在の共学校に見られる光景と重なる部分も多いと感じるが、いかがだろうか。男子が女子をリードする存在に、などと言うつもりは毛頭ないが、男子一人ひとりが教室内で埋もれることなく、自信を持って学習できる環境は必要である。

### 3. 男子に求められるスキル

もう一つ取り上げたい問題は、現代の社会（企業）が人材に求めるスキルについてである。日本の産業構造が変化し、女性の社会参加を促進する様々な施策が徐々に進んできて、従来は「男の職場」と言われた分野への女性の登用も少しずつ進んでいる。その結果、社会（企業）が求める人材像も変化してきた。男子には今まで

あまり意識されなかったスキルが求められるようになってきている。こうしたスキルの代表例がコミュニケーション能力と協調性だろう。いずれも伝統的に女子が優位で男子が苦手、とされてきた項目である。コミュニケーション能力は言語活動と不可分であり、読解力と密接に関係する。冒頭の男性脳、女性脳の立場に立つなら女性優位で当然だが、男性でも大いに磨くことが求められている。

また、協調性はリーダーシップだけでなくフォロワーシップが大切で、自分勝手は慎み互いに助け合う、チームメイトに配慮する(広い意味のコミュニケーション能力に含まれる)などの行動習慣を身につけることが求められる。協調性は「チームワーク」という表現で、以前なら部活動やホームルーム活動をやっていれば、自然と身についたと考えられがちだったが、

- ・一人っ子が増えたこと。
- ・社会全体に規範意識が低下してきたこと。
- ・昔ながらのスポーツ根性型部活動でのチームワークと、現代の企業が求める協調性とは異なること。

などから、「自然に身につく」といった、受身の姿勢ではなく、スキルを意識的に身につけさせることが必要だろう。小学校や大学が担う役割はあるが、発達段階を考えると、中学・高校が担う役割は大きい。

#### 4. 男女の違いを踏まえた教育を考える時期ではないか

こうして見ると、男子には読解力をはじめとする言語能力やコミュニケーション能力、協調性を重視した教育が、また、パターン練習やコツコツ学習を進める分野をしっかりと学習し、力をつけていく指導が求められていて、女子には数学的リテラシーに代表されるような理数的な思考力や問題解決能力に重点をおいた指導が求められている。ところが、共学校では今まで、体育や性教育は別として、学力やスキルの面で男女の違いを踏まえた教育はあまり意識されてこなかったのではないだろうか。

試しに国会図書館の所蔵文献を「共学」のキーワードで検索すると、1950年代は書籍や教育雑誌で盛んに共学が取り上げられたが、もっぱら学校運営や風紀問題についての文献が多く、男女別の学力やスキルでは入試制度・生徒の学校選択動向に関する文献くらいである。60年代からは一気に文献が少なくなり、次に増えるのは80~90年代半ばにかけての家庭科男女共修である。90年代後半になって、初めて学力やスキルの点で、男女の違いを踏まえた教育内容が提起されるが、この時点では女子からのアプローチである。00年代に入ると高校再編に伴う共学化再考論やジェンダーバッシングを意図すると思われる別学論も出るが、いずれにしても男子の学力・スキルといった点からは説得力のある文献が乏しい。

これは、もともと戦後の共学実施が、男子の教育内容を女子に開放する考え方がベースにあったからだと思われるが、「男女平等＝機械的均等」で、男女の違いに触れることに必要以上にナーバスになっていた点もあるだろう。こうした背景もあっ

---

て、男女の違いを踏まえた教育は、各校での経験や積み上げを、共学校が互いに共有しにくかったのではないかと思われる。

毎年のように共学化や共学部設置に踏み切る私立男子校や女子校が出ている。学校経営の側面が大きいからか、ここまでに論じてきたような、男女の違いを踏まえた教育の視点に立った共学化は少ないように感じる。アピール不足なだけかもしれないが、長年男子校や女子校として積み上げてきた実績を土台に、学力やスキルの面で「機械的均等」にとらわれない教育を提案、実行していく学校がもっとあっても良いのではないだろうか。筆者は共学を否定する気は全くないが、共学開始後60年も過ぎたのだから、「機械的均等」から脱却する共学校があっても良い。

女子の視点からは、学習指導の「機械的均等」からもたらされる課題が提起されるようになって来た。たとえば、女子校や女子部に理数系の科・コース・クラスが設置されている私学はあり、科学技術振興機構は女性研究者・技術者、大学生等と女子中高生の交流機会の提供などを通じて、女子中高生の理系進路選択を支援する事業を実施している。また、東洋英和女学院大学の「女性に理解しやすい数学テストのデザイン研究」(『日本教育工学会研究報告集』08-4)は、即教室現場で応用というわけにはいかないが、こうしたアプローチも重要だろう。いずれも男女の違いを前提として、苦手とされる分野に、少しでも多くの女子が親しみ、進路を実現させようとする取り組みだ。女子ではこのような試みや活動が活発になってきた。

次は男子の番だ。「男子に理解しやすい国語テスト」や男子向けに開発されたコミュニケーション能力アッププログラムがあっても良い。このような、男子育成の先頭に立てるのは私立男子校であろう。少人数や手をかける学習指導で、パターン練習やコツコツ学習を進める分野をフォローする学校も現れ始めた。私立男子校は、大学進学を看板にしている学校が多く、また受験生側もそれを前提として学校選択を行うケースが多い。各校とも「人間教育に力を注ぐ」と言うが、どうしても受験生側の目は進学指導体制や実績だけに行きがちである。しかし、大学進学は目的ではなくプロセスのはずだ。進学実績・進学体制を向上させつつ、大学進学後、あるいは社会に出てから必要なリテラシー、スキルを身につける教育を実践してほしい。そしてそれらを私立男子校のさらなる魅力として、具体的な形で受験生に、保護者に、そして社会に、積極的にアピールしていただきたいものである。

## おわりに

本稿は、鷗友学園の女子教育連続講演会での、各回の講演に触発されたものである。第Ⅱ期第2回の講師、友野清文先生からご紹介いただいた、「ドイツにおける男子援助活動の研究(池谷壽夫氏著)」は大変参考になった。男子に対する、男女を踏まえた教育は、メディアでの男性像や引きこもりなど、さらに大きな問題もあるが、『ビジョナリー』の性格上、私立中高に期待される部分にとどめた。また、女子の立場から検討すべき課題も多いが、今回は男子に焦点をあてたことをご了解いただきたい。筆者に勉強させていただく機会を作ってくださいました関係各位に、深く感謝申し上げたい。

文・池田 亨(株)エデュケーショナルネットワーク・データ課長)

都内公立中3年「志望予定調査」から分かること

## 入試環境の変化に慎重な学校選択

政権交代という瓢箪から授業料無償化の駒が出て、あれよあれよという間に入試シーズンがやってきた。

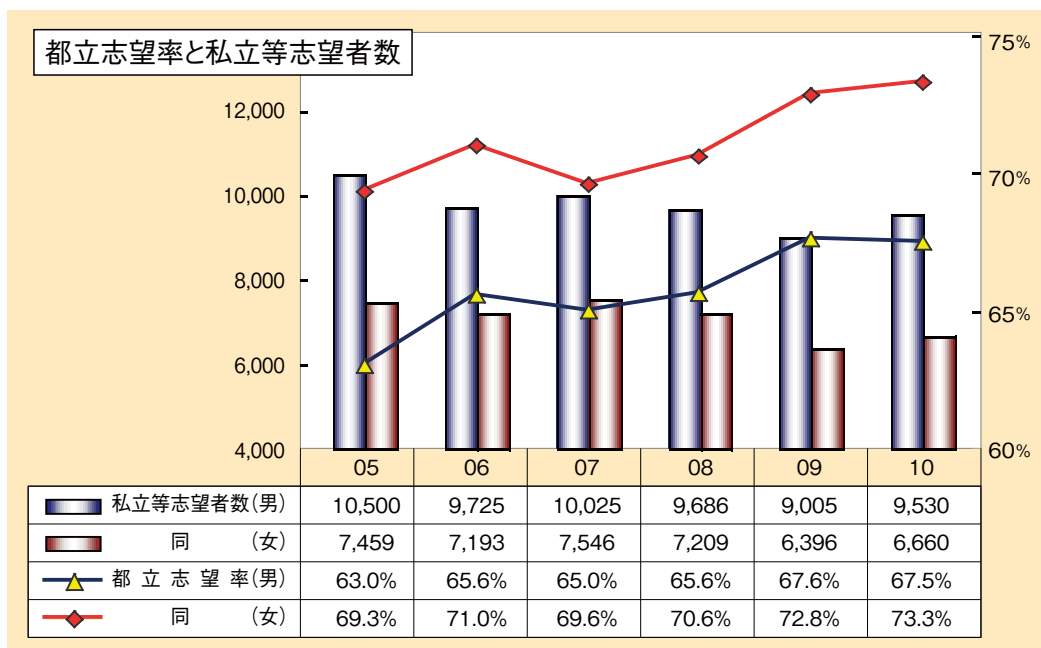
先日発表の都内公立中3年「志望予定調査」では、都立第一志望の生徒の割合は予想に反して、ほとんど伸びなかった。一方、私立志望者は増えたものの、卒業予定者の増加率(5.4%)ほどは伸びていない。環境の変化に受験生はどう動いたか。

調査結果を分析して、今春の高校入試の特徴を明らかにした。また、p 16～19では、都立一般入試の不合格者数の予測を試みた(資料提供(株)進学研究会)。

### ◆私立等の志望者 3年ぶりに増加

調査では次の点が明らかになった。

- 今春の卒業予定者は76,929名で、前年より4,000名近く増加。
- 全日制高校志望率(都立、私立、国立、高専を含む)は92.75%で、調査を始めて以来最低。
- 卒業予定者に占める全日制都立志望者の割合(男女計、高専を含む)は70.2%で、昨年と比べて、0.1%の増加に止まる。
- 都立全体の志望倍率は1.31倍。昨年の1.30倍から、わずかに上昇。
- 私立等(国立、他県を含む)の志望者は昨年→今年で、15,401名→16,190名と3年ぶりに増加。
- 公私の志望の比率は昨年とほぼ同じで、無償化の影響は見えない。



## ◆上昇に歯止め 普通科(学年制)の志望倍率

このところ安定していた卒業予定者数は、今年、前年比3,961名の増加。来年は大幅減、再来年には再び大幅増と、昇降しつつ中期的には増加の基調。

これに対し都立では、今春、全日制43校で44学級の臨時学級増を行ない、募集人員を昨年より大幅に増やした。学級増が学年制普通科に集中して行われたため、上昇が続いていた学年制普通科の志望倍率は、昨年→今年で、男子…1.35倍→1.33倍、女子…1.43倍→1.42倍と、上昇に歯止めがかかった。

学級増のなかった単位制普通科や商業科、総合学科などでは、卒業予定者増の恩恵に浴して、倍率が軒並み上昇している(右表)。

学 科	07	08	09	10
都 立 計	1.24	1.26	1.30	1.30
学普(男)	1.28	1.31	1.35	1.33
学普(女)	1.35	1.37	1.43	1.42
単 位 普	1.17	1.25	1.26	1.37
商 業 科	0.97	0.97	0.91	1.03
工 業 科	1.02	1.02	1.07	1.07
総合学科	1.11	1.12	1.13	1.21
農 業 科	1.20	1.23	1.37	1.50
国 際 科	1.50	1.31	1.26	1.34

とくに単位制普通科は、昨年の1.26倍から

1.37倍へ0.1ポイント以上アップ、3年続けて上昇。総合学科や農業科でも連続して上昇している。

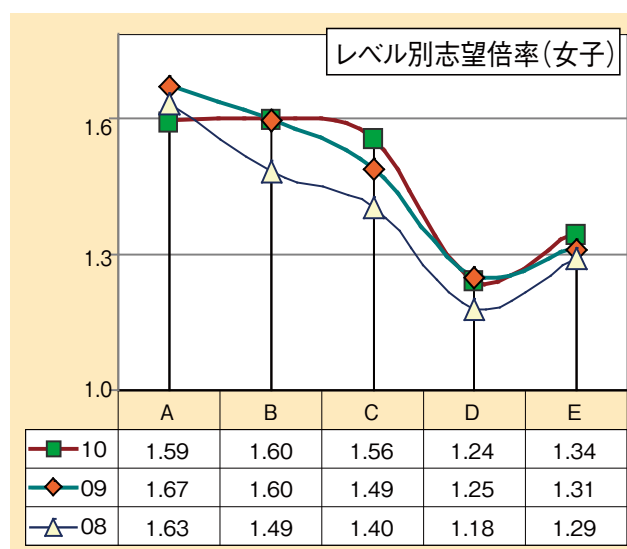
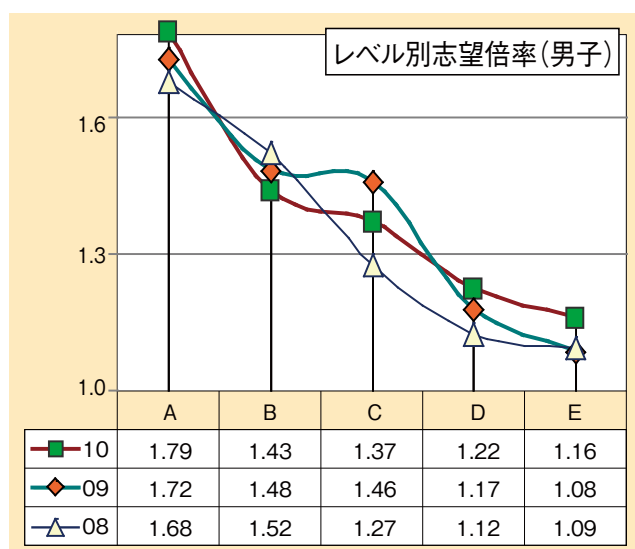
一方、昼夜間定時制高校などの開校で、全日制高校志望率は長期低落状態が続いている。実際の進学率も昨年89.9%と、90%の大台を割っている。今年、夜間定時制の志望者が、昨年の約1.3倍に増えている。

## ◆男女で異なる分布の形

下のグラフでは、学年制普通科の高校を、「進研Vもぎ」の合格基準でA～Eの5つのレベルに分け(Aが最上位)、平均志望倍率の3年推移を調べた。

上位志向は変わらないが、今年、男女で分布の形が大きく変化している。

レベルごとに比べてみると、最上位のAレベルでは、男子が08年→09年の1.68倍→1.72倍に続いて、今年も1.79倍と伸びているのに対して、女子は、昨年の1.67倍から、1.59倍へダウンしている。



Bレベルでは、男子が低下する一方、女子は変わらず。Cレベルでは、男子のダウンに対して、女子は大幅にアップしている。

その結果、今年の分布は、男女で全く異なるカーブを描いている。男子は、助走路が高くなったスキーのジャンプ台のような形を、女子は、ゴルフコースの砲台グリーンとバンカーのような形を、それぞれ描いている。

男子の最上位が伸びた原因は私立高校にある。今年、早大学院、中大附属などトップクラスの私立が中学を開設、高校からの募集を縮小させた。これが、最上位の倍率を押し上げている。中位では、学級増が奏功して倍率が下がっている。

一方女子では、最上位が伸びず、中位のCレベルが伸びている。Cレベルは学級増の学校が多く、昨年並みの志望者数なら、男子のように倍率が下がるはず。ところが、女子では、多くの志望者がこのレベルに集まり、倍率がアップしている。

これは女子の安全志向が原因。倍率が下がることを見込んだ志望者が、学級増を行った人気の高い学校に多く集まったためだ。

## ◆「確実に受かりたい」女子が大移動

下の表は、志望倍率の高い学年制普通科の学校を、男女別に上位15位まで並べたもの。募集の列に「増」とあるのが、学級増を行った学校である。

男子で学級増を行った学校は、豊島と石神井の2校。これに対して女子では、小平、三田、文京など6校がランクイン、上位8校のうち5校が学級増を行った学校となっている。女子ではまた、志望倍率2倍以上の学校が11校と多く、そのなかにB、Cレベルの、近年大学合格実績を高めている学校が目立っている。

順	男子				女子			
	校名	倍率	レベル	募集	校名	倍率	レベル	募集
1	戸山	2.48	A		調布南	2.54	C	
2	日比谷	2.21	A		小平	2.38	C	増
3	調布南	2.16	C		三田	2.26	B	増
4	西	1.96	A		文京	2.17	B	増
5	国立	1.96	A		日本橋	2.10	D	
6	城東	1.89	B		足立東	2.09	E	
7	狛江	1.84	C		広尾	2.06	C	増
8	豊島	1.82	C	増	小金井北	2.02	B	増
9	調布北	1.81	B		鷺宮	2.02	D	
10	足立東	1.78	E		田園調布	2.01	C	
11	拝島	1.73	E		青山	2.01	A	
12	石神井	1.72	C	増	狛江	1.98	C	
13	立川	1.69	A		上野	1.91	B	
14	府中東	1.68	D		武蔵野北	1.90	B	
15	秋留台	1.67	E		竹早	1.90	A	増

学年制以外を含めると、前ページ、女子のグラフのバンカーの場所には、倍率の伸びた総合学科と単位制の学校が位置している。

それらの志望者の伸びを調べると、男子の前年比、約200名増に対して、女子は約500名増と、学年制から、女子が多く流れ込んでいることが分かる。

内申の高い女子にとっては、推薦枠の広い総合学科や単位制が安全網なのだ。

無償化といっても、受かってこそその話。都立志望の女子は、より確実な合格を求めて、大移動を始めたようだ。

## ◆慎重な学校選び 上位でも

進学指導重点校と特別推進校の志望者の動きにも、安全志向が見える。

前年比では、最上位の日比谷、戸山、西、八王子東、国立の5校計で、男子は7%増と、卒業予定者の増加率5.4%を上回っているが、女子は3%増に止まっている(進学重点校7校の男女合計では史上2番目の志望者数=下図)。

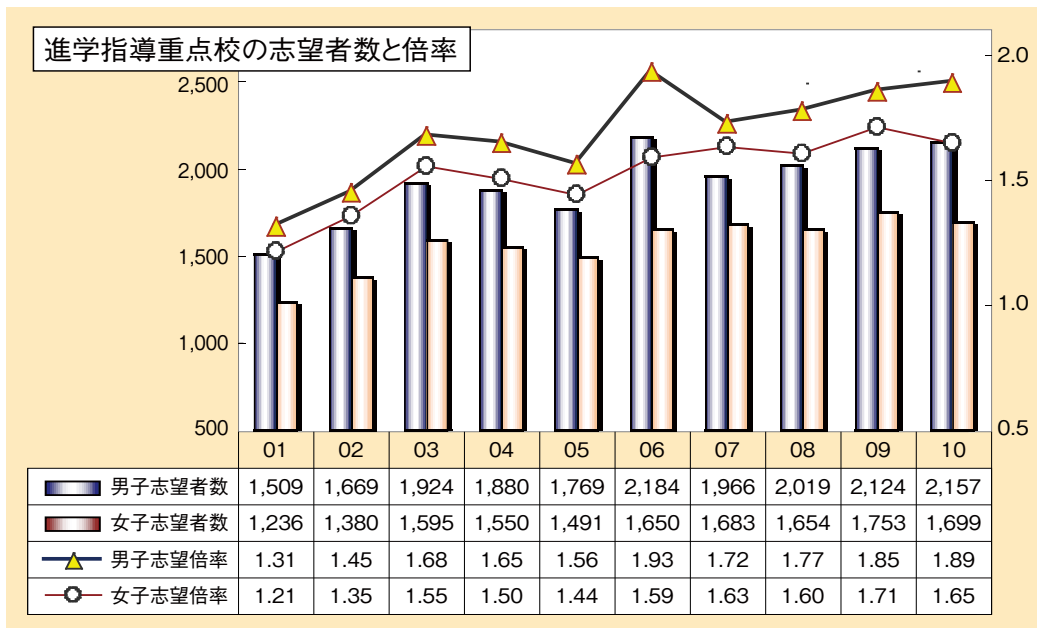
ところが、青山、立川、国分寺3校の合計では、男子が5%減、女子は8%減と大幅にダウン。ここでは、基準より前年の倍率が影響している。

移動の様子を昨年の受検倍率とともに示すと、男子では、青山…前年比43名減(09年2.03倍)→小山台…同67名増(同1.27倍)、女子では、立川…同73名減(同1.86倍)→八王子東…同24名増(1.31倍)と、合格基準が同程度で、前年低倍率だった学校へシフトしている。安全志向は女子だけではない。

一方、中学を開校して高校募集を絞る富士、大泉、南多摩、三鷹の4校では、志望者が合計で800名近く減っている。移動先は、新宿、竹早、豊多摩、町田、武蔵野北、小金井北、調布北、日野台などで、ここでも同様な移動が起こっている。

全体では、公私の志望割合はほとんど変わらず、都立を志望するものは、そのなかで確実に合格する学校を選んでいる。中3生の急増やそれに伴う学級増、私立の推薦運用の整備、授業料無償化など、入試環境の大きな変化に、受験生・保護者は慎重な学校選びを進めているようだ。

指定	学校名	男子		女子	
		今年	昨年	今年	昨年
進学指導重点校	日比谷	2.21	2.11	1.57	1.67
	戸山	2.48	2.35	1.85	1.68
	青山	1.51	1.81	2.01	2.13
	西	1.96	1.88	1.54	1.58
	八王子東	1.35	1.15	1.31	1.16
	立川	1.69	1.89	1.60	2.10
	国立	1.96	1.77	1.69	1.68
特別推進校	小山台	1.65	1.43	1.55	1.76
	駒場	1.61	1.95	1.62	1.90
	町田	1.65	1.63	1.51	1.78
	新宿	2.41	2.13	(男女合同募集)	
	国分寺	1.89	1.72	(同)	



◆志望校調査からの不合格者数予測 ①学年制普通科

前年比の△は増加を▲は減少を表す

学区	学校名	レベル男女	年	男女緩和	男子					女子					男女計	
					志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			斜字体は予測	
					志望者数	志望倍率	受検倍率	不合格者数	前年比	志望者数	志望倍率	受検倍率	不合格者数	前年比	不合格者数	前年比
旧一学区	日比谷	A 09			352	2.11	2.20	145		251	1.67	1.89	97		242	
		A 10			369	2.21	2.24	150	△ 5	236	1.57	1.72	74	▲ 23	224	▲ 18
	小山台	A 09			207	1.43	1.27	30		231	1.76	1.77	74		104	
		A 10			274	1.65	1.44	58	△ 28	232	1.55	1.64	69	▲ 5	127	△ 23
	三田	B 09	●		285	2.11	2.14	133		305	2.52	2.43	124		257	
		B 10	●		259	1.66	1.58	85	▲ 48	317	2.26	2.23	122	▲ 2	207	▲ 50
	雪谷	C 09	●		175	1.40	1.29	26		140	1.25	1.29	23		49	
		C 10	●		190	1.30	1.27	36	△ 10	167	1.27	1.37	23	△ 0	59	△ 10
	田園調布	C 09	●		182	1.67	1.52	44		150	1.55	1.69	52		96	
		C 10	●		175	1.62	1.51	51	△ 7	197	2.01	2.05	72	△ 20	123	△ 27
	大崎	D 09	●		158	1.08	0.97	3		147	1.12	1.11	4		7	
		D 10	●		153	1.05	1.02	0	▲ 3	125	0.95	1.03	2	▲ 2	2	▲ 5
	八潮	E 09	●		85	0.69	0.91	0		87	0.78	1.02	0		0	
		E 10	●		78	0.63	0.82	ほぼ全入	△ 0	86	0.77	0.99	ほぼ全入	△ 0	ほぼ全入	△ 0
大森	E 09	●		147	1.18	0.92	0		94	0.84	0.91	0		0		
	E 10	●		158	1.26	1.10	5	△ 5	112	1.00	1.06	5	△ 5	10	△ 10	
蒲田	E 09			104	1.42	1.88	37		88	1.35	1.61	23		60		
	E 10			103	1.41	1.83	35	▲ 2	87	1.34	1.71	27	△ 4	62	△ 2	
旧二学区	戸山	A 09			392	2.35	2.16	147		251	1.68	1.77	87		234	
		A 10			411	2.48	2.23	153	△ 6	278	1.85	1.79	92	△ 5	245	△ 11
	青山	A 09			264	1.81	2.03	133		279	2.13	2.02	110		243	
		A 10			221	1.51	1.55	72	▲ 61	263	2.01	1.96	102	▲ 8	174	▲ 69
	駒場	A 09			283	1.95	1.82	93		249	1.90	2.10	111		204	
		A 10			268	1.61	1.55	72	▲ 21	243	1.62	1.80	90	▲ 21	162	▲ 42
	目黒	C 09	●		170	1.36	1.44	54		171	1.53	1.76	52		106	
		C 10	●		177	1.21	1.29	40	▲ 14	159	1.21	1.34	23	▲ 29	63	▲ 43
	広尾	C 09	●		209	2.01	1.73	66		224	2.41	2.21	71		137	
		C 10	●		175	1.40	1.39	47	▲ 19	231	2.06	1.93	62	▲ 9	109	▲ 28
	松原	D 09	●		82	0.80	0.89	0		116	1.25	1.37	10		10	
		D 10			129	1.04	1.13	10	△ 10	100	0.89	1.04	2	▲ 8	12	△ 2
	桜町	D 09	●		130	1.05	1.21	25		120	1.07	1.33	18		43	
		D 10	●		143	0.99	1.04	16	▲ 9	160	1.22	1.30	16	▲ 2	32	▲ 11
千歳丘	E 09	●		120	0.96	1.04	7		118	1.05	1.12	6		13		
	D 10	●		105	0.72	0.87	ほぼ全入	▲ 7	96	0.73	0.88	ほぼ全入	▲ 6	ほぼ全入	▲ 13	
深沢	E 09	●		101	1.07	1.25	23		132	1.57	1.61	31		54		
	E 10	●		76	0.81	1.01	7	▲ 16	132	1.57	1.64	33	△ 2	40	▲ 14	
旧三学区	西	A 09			314	1.88	2.06	117		235	1.58	1.72	73		190	
		A 10			326	1.96	2.05	115	▲ 2	231	1.54	1.72	74	△ 1	189	▲ 1
	大泉	B 09			232	1.59	1.55	61		188	1.44	1.55	53		114	
		A 10			145	1.39	1.42	31	▲ 30	127	1.37	1.45	31	▲ 22	62	▲ 52
	富士	B 09			223	1.34	1.42	56		249	1.67	1.81	87		143	
		B 10			127	1.23	1.34	24	▲ 32	130	1.40	1.52	36	▲ 51	60	▲ 83
	豊多摩	B 09			215	1.48	1.63	69		154	1.18	1.40	36		105	
		B 10			241	1.45	1.52	67	▲ 2	230	1.53	1.76	82	△ 46	149	△ 44
	井草	B 09			218	1.74	1.56	50		175	1.56	1.81	70		120	
		B 10			243	1.66	1.54	56	△ 6	166	1.27	1.40	39	▲ 31	95	▲ 25
	杉並	C 09	●		213	1.46	1.56	76		245	1.87	2.06	92		168	
		C 10	●		222	1.33	1.41	68	▲ 8	279	1.86	2.00	99	△ 7	167	▲ 1
	石神井	C 09			333	2.69	1.96	94		294	2.63	2.21	105		199	
		C 10			250	1.72	1.35	39	▲ 55	200	1.53	1.48	46	▲ 59	85	▲
武蔵丘	D 09	●		159	1.09	1.25	21		115	0.88	1.29	31		52		
	D 10	●		175	1.20	1.27	43	△ 22	211	1.61	1.76	69	△ 38	112	△ 60	
鷺宮	D 09	●		182	1.26	1.36	49		261	1.99	1.92	73		122		
	D 10	●		191	1.32	1.40	54	△ 5	264	2.02	1.98	81	△ 8	135	△ 13	
光丘	E 09			113	0.93	1.17	13		91	0.83	1.21	12		25		
	E 10			122	1.00	1.13	10	▲ 3	95	0.87	1.13	7	▲ 5	17	▲ 8	
練馬	E 09			170	1.36	1.34	30		140	1.25	1.45	33		63		
	E 10			190	1.30	1.31	29	▲ 1	139	1.06	1.23	21	▲ 12	50	▲ 13	
田柄	E 09	●		60	1.18	1.13	8		118	2.62	1.94	29		37		
	E 10	●		63	1.26	1.24	13	△ 5	73	1.59	1.40	10	▲ 19	23	▲ 14	

学区	学校名	レベル 男女	年 度	男女 緩和	男 子					女 子					男女計	
					志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			斜字体は予測	
					志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者 数	前年比	志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者 数	前年比	不合格 者 数	前年比
旧四学区	竹 早	B 09			117	1.00	1.21	19		138	1.31	1.27	14		33	
		A 10			155	1.12	1.20	21	△ 2	235	1.90	1.67	57	△ 43	78	△ 45
	北 園	B 09	●		221	1.32	1.40	56		211	1.41	1.56	59		115	
		B 10	●		202	1.21	1.24	39	▲ 17	243	1.62	1.64	65	△ 6	104	▲ 11
	文 京	B 09	●		237	1.63	1.59	74		235	1.79	1.92	75		149	
		B 10	●		272	1.64	1.61	88	△ 14	325	2.17	2.25	123	△ 48	211	△ 62
	豊 島	C 09	●		192	1.55	1.65	75		220	1.96	1.91	67		142	
		C 10	●		264	1.82	1.81	106	△ 31	224	1.71	1.77	63	▲ 4	169	△ 27
	向 丘	C 09	●		122	0.98	1.13	23		214	1.91	1.88	63		86	
		C 10	●		137	0.94	1.03	16	▲ 7	189	1.44	1.49	33	▲ 30	49	▲ 37
	高 島	D 09	●		191	1.32	1.10	13		159	1.21	1.17	9		22	
		D 10	●		234	1.41	1.22	35	△ 22	210	1.40	1.35	29	△ 20	64	△ 42
板 橋	D 09	●		164	1.31	1.30	24		150	1.34	1.33	26		50		
	D 10	●		140	0.96	1.03	9	▲ 15	145	1.11	1.21	12	▲ 14	21	▲ 29	
大 山	E 09	●		156	1.25	1.46	37		145	1.29	1.39	33		70		
	E 10	●		143	1.14	1.32	39	△ 2	175	1.56	1.60	38	△ 5	77	△ 7	
旧五学区	白 鷗	B 09			32	0.82	1.26	3		28	0.72	1.37	4		7	
		B 10			29	0.74	1.26	3	△ 0	29	0.74	1.32	4	△ 0	7	△ 0
	上 野	B 09			267	1.60	1.64	79		229	1.54	1.61	73		152	
		B 10			232	1.40	1.44	58	▲ 21	287	1.91	1.96	109	△ 36	167	△ 15
	江 北	C 09			220	1.32	1.26	29		147	0.99	1.09	11		40	
		C 10			169	1.02	1.07	7	▲ 22	136	0.91	1.05	4	▲ 7	11	▲ 29
	足 立	D 09	●		144	0.99	1.07	7		136	1.04	1.11	7		14	
		D 10	●		193	1.16	1.19	23	△ 16	158	1.05	1.16	14	△ 7	37	△ 23
	足立新田	D 09	●		164	1.45	1.33	32		141	1.40	1.45	27		59	
		D 10	●		155	1.37	1.28	30	▲ 2	159	1.57	1.58	35	△ 8	65	△ 6
	竹 台	D 09	●		100	0.94	0.88	0		131	1.36	1.54	28		28	
		D 10	●		132	1.25	1.23	28	△ 28	140	1.46	1.58	32	△ 4	60	△ 32
	足立西	D 09	●		141	1.14	1.06	0		106	0.95	0.90	0		0	
		D 10	●		138	1.11	1.15	9	△ 9	115	1.03	1.01	3	△ 3	12	△ 12
	淵 江	E 09	●		91	0.83	1.00	7		131	1.34	1.64	36		43	
		E 10	●		106	0.97	1.13	18	△ 11	130	1.33	1.63	36	△ 0	54	△ 11
	青 井	E 09	●		91	0.91	1.14	16		119	1.32	1.82	42		58	
		E 10	●		104	1.04	1.28	26	△ 10	115	1.28	1.60	28	▲ 14	54	▲ 4
足立東	E 09			108	1.50	1.83	35		95	1.48	2.19	38		73		
	E 10			128	1.78	2.07	45	△ 10	134	2.09	2.68	57	△ 19	102	△ 29	
旧六学区	両 国	A 09			62	1.59	1.52	5		31	0.79	1.41	11		16	
		A 10			54	1.38	1.48	10	△ 5	47	1.21	1.52	14	△ 3	24	△ 8
	小 松 川	B 09			240	1.44	1.40	49		190	1.27	1.33	37		86	
		B 10			255	1.53	1.44	53	△ 4	166	1.11	1.15	17	▲ 20	70	▲ 16
	城 東	B 09			251	1.50	1.53	63		223	1.50	1.50	53		116	
		B 10			314	1.89	1.88	107	△ 44	232	1.55	1.57	61	△ 8	168	△ 52
	江 戸 川	C 09			249	1.71	1.48	50		208	1.59	1.51	46		96	
		C 10			246	1.47	1.40	49	▲ 1	240	1.60	1.58	61	△ 15	110	△ 14
	深 川	C 09	●		154	1.52	1.46	44		144	1.60	1.58	27		71	
		C 10	●		162	1.33	1.34	42	▲ 2	167	1.53	1.49	28	△ 1	70	▲ 1
	東	C 09	●		234	1.87	1.71	71		213	1.90	1.69	56		127	
		C 10	●		184	1.26	1.26	43	▲ 28	221	1.69	1.53	40	▲ 16	83	▲ 44
	本 所	D 09			160	1.28	1.44	39		177	1.58	1.70	56		95	
		D 10			206	1.41	1.63	67	△ 28	208	1.59	1.66	62	△ 6	129	△ 34
	小 岩	D 09	●		162	1.12	1.17	21		152	1.16	1.29	20		41	
		D 10	●		184	1.11	1.14	24	△ 3	224	1.49	1.57	53	△ 33	77	△ 36
	紅 葉 川	D 09			186	1.49	1.26	26		175	1.56	1.52	44		70	
		D 10			219	1.50	1.25	29	△ 3	191	1.46	1.43	42	▲ 2	71	△ 1
	葛 飾 野	E 09			206	1.41	1.25	29		152	1.16	1.29	26		55	
		E 10			200	1.20	1.17	18	▲ 11	145	0.97	1.13	15	▲ 11	33	▲ 22
篠 崎	E 09	●		140	1.22	1.30	30		122	1.18	1.30	21		51		
	E 10	●		135	1.17	1.29	34	△ 4	141	1.37	1.43	27	△ 6	61	△ 10	
日 本 橋	E 09	●		132	1.25	1.47	42		162	1.69	1.90	54		96		
	E 10	●		147	1.31	1.47	46	△ 4	210	2.10	2.28	84	△ 30	130	△ 34	
葛 西 南	E 09	●		178	1.42	1.51	44		165	1.46	1.44	36		80		
	E 10	●		160	1.28	1.37	40	▲ 4	151	1.34	1.35	22	▲ 14	62	▲ 18	
南 葛 飾	E 09	●		93	0.83	1.17	22		149	1.48	1.48	27		49		
	E 10	●		132	1.18	1.31	28	△ 6	109	1.08	1.22	13	▲ 14	41	▲ 8	

学区	学校名	レベル 男女	年 度	男女 緩和	男子					女子					男女計	
					志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			斜字体は予測	
					志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者数	前年比	志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者数	前年比	不合格 者数	前年比
旧七学区	八王子東	A	09		192	1.15	1.29	35		173	1.16	1.31	31		66	
		A	10		224	1.35	1.47	60	△ 25	197	1.31	1.40	41	△ 10	101	△ 35
	南多摩	B	09		235	1.48	1.27	35		257	1.81	1.63	62		97	
		B	10		103	1.39	1.23	11	▲ 24	111	1.66	1.48	24	▲ 38	35	▲ 62
	町田	B	09		204	1.63	1.60	53		199	1.78	1.70	56		109	
		B	10		276	1.65	1.62	77	△ 24	227	1.51	1.57	62	△ 6	139	△ 30
	日野台	B	09		179	1.23	1.33	35		178	1.36	1.54	47		82	
		B	10		236	1.41	1.49	61	△ 26	192	1.28	1.45	45	▲ 2	106	△ 24
	南平	B	09		271	1.86	1.38	43		281	2.15	1.69	66		109	
		B	10		211	1.26	1.19	24	▲ 19	253	1.69	1.43	45	▲ 21	69	▲ 40
	成瀬	C	09		179	1.23	1.36	39		169	1.29	1.35	33		72	
		C	10		192	1.32	1.35	39	△ 0	158	1.21	1.28	26	▲ 7	65	▲ 7
	富士森	D	09	●	176	1.23	1.16	13		157	1.23	1.15	12		25	
		D	10	●	132	0.92	0.87	ほぼ全入	▲ 13	135	1.05	1.02	ほぼ全入	▲ 12	ほぼ全入	▲ 25
	日野	D	09		149	1.02	1.14	13		128	0.98	1.28	25		38	
		D	10		217	1.49	1.55	59	△ 46	163	1.24	1.45	44	△ 19	103	△ 65
	松が谷	D	09		174	1.69	1.38	27		106	1.14	1.19	13		40	
		D	10		140	1.36	1.12	10	▲ 17	120	1.29	1.25	16	△ 3	26	▲ 14
	小川	D	09		154	1.06	1.22	26		138	1.05	1.26	23		49	
		D	10		173	1.19	1.22	25	▲ 1	127	0.97	1.09	6	▲ 17	31	▲ 18
片倉	D	09		164	1.58	1.38	26		145	1.56	1.40	26		52		
	D	10		172	1.38	1.22	17	▲ 9	92	0.82	0.85	-13	▲ 39	4	▲ 48	
山崎	E	09	●	88	0.78	1.10	17		91	0.90	1.25	12		29		
	D	10	●	110	0.97	1.08	15	▲ 2	120	1.19	1.32	17	△ 5	32	△ 3	
八王子北	E	09		127	1.22	1.44	33		147	1.56	1.62	43		76		
	E	10		108	1.04	1.22	17	▲ 16	129	1.37	1.42	29	▲ 14	46	▲ 30	
野津田	E	09	●	96	1.52	1.35	21		92	1.64	1.71	24		45		
	E	10	●	76	1.21	1.13	11	▲ 10	104	1.86	1.69	23	▲ 1	34	▲ 11	
旧八学区	立川	A	09		315	1.89	1.72	92		313	2.10	1.86	98		190	
		A	10		281	1.69	1.55	67	▲ 25	240	1.60	1.53	60	▲ 38	127	▲ 63
	北多摩	B	09	●	88	1.07	1.12	14		110	1.49	1.75	31		45	
		B	10	●	71	0.87	0.95	3	▲ 11	88	1.19	1.33	7	▲ 24	10	▲ 35
	昭和	B	09		173	1.19	1.20	20		180	1.37	1.37	33		53	
		B	10		190	1.14	1.16	19	▲ 1	182	1.21	1.27	25	▲ 8	44	▲ 9
	東大和南	C	09		212	1.46	1.40	42		143	1.09	1.28	25		67	
		C	10		206	1.24	1.34	41	▲ 1	183	1.22	1.41	43	△ 18	84	△ 17
	東大和	C	09		187	1.28	1.46	46		107	0.82	1.16	16		62	
		C	10		205	1.23	1.33	37	▲ 9	169	1.13	1.33	37	△ 21	74	△ 12
	福生	D	09		143	1.14	1.07	7		129	1.15	1.17	11		18	
		D	10		151	1.21	1.17	15	△ 8	120	1.07	1.10	8	▲ 3	23	△ 5
	武蔵村山	E	09	●	145	1.16	1.17	19		154	1.38	1.42	29		48	
		D	10	●	111	0.76	0.88	ほぼ全入	▲ 19	115	0.88	0.97	ほぼ全入	▲ 29	ほぼ全入	▲ 48
	羽村	E	09	●	140	0.96	1.16	24		129	0.98	1.23	18		42	
		D	10	●	149	0.89	1.10	19	▲ 5	158	1.05	1.30	27	△ 9	46	△ 4
	拝島	E	09		150	1.20	1.21	21		134	1.20	1.50	42		63	
		E	10		216	1.73	1.65	65	△ 44	189	1.69	1.87	76	△ 34	141	△ 78
	多摩	E	09	●	108	1.30	1.35	25		97	1.29	1.40	16		41	
		E	10	●	130	1.57	1.58	38	△ 13	111	1.48	1.63	28	△ 12	66	△ 25
秋留台	E	09		122	1.39	1.96	49		119	1.51	2.02	47		96		
	E	10		147	1.67	2.35	69	△ 20	129	1.63	2.15	53	△ 6	122	△ 26	
旧九学区	武蔵	A	09		136	1.31	1.46	37		128	1.38	1.45	28		65	
		A	10		138	1.33	1.40	26	▲ 11	89	0.96	1.01	1	▲ 27	27	▲ 38
	武蔵野北	B	09	●	144	1.15	1.18	27		198	1.77	1.74	49		76	
		B	10	●	180	1.44	1.45	53	△ 26	213	1.90	1.79	55	△ 6	108	△ 32
	小金井北	B	09		237	1.90	1.60	59		241	2.15	1.84	69		128	
		B	10		197	1.35	1.28	32	▲ 27	265	2.02	1.81	77	△ 8	109	▲ 19
	清瀬	C	09		208	1.68	1.76	75		178	1.59	1.50	41		116	
		B	10		177	1.22	1.30	34	▲ 41	200	1.53	1.48	46	△ 5	80	▲ 36
	小平	C	09	●	190	1.83	1.46	47		253	2.72	1.96	58		105	
		C	10	●	158	1.26	1.03	13	▲ 34	266	2.38	1.74	51	▲ 7	64	▲ 41
	小平南	C	09		145	0.99	1.25	25		116	0.89	1.19	17		42	
		C	10		200	1.37	1.41	45	△ 20	131	1.00	1.14	12	▲ 5	57	△ 15
	保谷	D	09	●	114	0.85	1.07	11		102	0.85	1.12	7		18	
		D	10	●	180	1.34	1.49	49	△ 38	126	1.05	1.28	21	△ 14	70	△ 52

学区	学校名	レベル 男女	年 度	男女 緩和	男 子					女 子					男女計	
					志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			志望校調査		一般入試(斜字体は予測)			斜字体は予測	
					志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者数	前年比	志望 者数	志望 倍率	受検 倍率	不合格 者数	前年比	不合格 者数	前年比
旧九学区	田 無	D 09	●	157	1.08	1.18	28		208	1.59	1.47	37		65		
		D 10	●	137	0.83	0.92	2	▲ 26	170	1.13	1.26	15	▲ 22	17	▲ 48	
	久留米西	D 09	●	134	1.08	1.19	20		126	1.13	1.17	11		31		
		D 10	●	123	0.99	1.06	11	▲ 9	131	1.17	1.21	12	△ 1	23	▲ 8	
	小平西	D 09	●	136	1.09	1.06	16		119	1.05	1.22	7		23		
		D 10	●	163	1.30	1.35	43	△ 27	158	1.40	1.52	33	△ 26	76	△ 53	
	東村山西	E 09	●	84	0.67	1.08	18		98	0.88	1.28	12		30		
		D 10	●	153	1.22	1.31	41	△ 23	152	1.36	1.49	32	△ 20	73	△ 43	
東村山	E 09	●	92	0.74	1.04	9		102	0.91	1.17	6		15			
	E 10		117	1.34	2.14	57	△ 48	107	1.35	2.13	52	△ 46	109	△ 94		
旧十学区	国 立	A 09		295	1.77	1.55	66		251	1.68	1.68	73		139		
		A 10		325	1.96	1.80	99	△ 33	254	1.69	1.63	67	▲ 6	166	△ 27	
	三 鷹	B 09		204	1.22	1.28	37		176	1.17	1.38	40		77		
		B 10		120	1.45	1.39	26	▲ 11	111	1.50	1.58	32	▲ 8	58	▲ 19	
	調布北	B 09	●	181	1.46	1.42	52		211	1.88	1.73	49		101		
		B 10	●	224	1.81	1.64	74	△ 22	194	1.73	1.66	42	▲ 7	116	△ 15	
	狛 江	C 09	●	237	1.42	1.43	71		288	1.92	1.83	79		150		
		C 10	●	308	1.84	1.57	90	△ 19	297	1.98	1.85	82	△ 3	172	△ 22	
	神 代	C 09	●	171	1.18	1.29	45		186	1.42	1.67	54		99		
		C 10	●	144	0.87	0.95	5	▲ 40	204	1.36	1.46	37	▲ 17	42	▲ 57	
	調布南	C 09		221	1.77	1.63	63		182	1.63	1.69	56		119		
		C 10		270	2.16	1.81	81	△ 18	284	2.54	2.29	110	△ 54	191	△ 72	
	府 中	D 09		186	1.50	1.47	47		230	2.05	2.06	88		135		
		D 10		192	1.32	1.33	36	▲ 11	213	1.63	1.65	63	▲ 25	99	▲ 36	
	府中西	D 09	●	190	1.14	1.40	53		160	1.07	1.35	35		88		
		D 10		220	1.32	1.34	45	▲ 8	166	1.11	1.22	20	▲ 15	65	▲ 23	
	府中東	D 09	●	155	1.16	1.30	40		167	1.39	1.48	33		73		
		D 10	●	225	1.68	1.74	85	△ 45	202	1.68	1.63	47	△ 14	132	△ 59	
永 山	E 09	●	117	0.80	1.14	27		140	1.07	1.46	32		59			
	E 10	●	186	1.27	1.29	46	△ 19	196	1.48	1.45	35	△ 3	81	△ 22		

②国際科・普通科単位制・総合学科など

(斜字体は予測)

学校名	レベル	年	志望者数	志望倍率	受検倍率	不合格者数	前年比	学校名	レベル	年	志望者数	志望倍率	受検倍率	不合格者数	前年比
国 際	A	09	216	1.35	1.51	47		晴海総合	C	09	277	1.17	1.19	19	
		10	258	1.61	1.89	92	△ 45			10	226	0.96	1.07	3	▲ 16
新 宿	A	09	672	2.13	2.34	280		つばさ総合	D	09	302	1.28	1.40	41	
		10	763	2.41	2.50	315	△ 35			10	341	1.44	1.49	52	△ 11
墨 田 川	C	09	380	1.20	1.34	53		杉並総合	D	09	222	0.94	1.27	29	
		10	392	1.24	1.27	51	▲ 2			10	270	1.14	1.43	47	△ 18
国 分 寺	A	09	545	1.72	1.83	174		若葉総合	D	09	303	1.28	1.40	42	
		10	598	1.89	1.95	200	△ 26			10	305	1.29	1.41	42	△ 0
美 原	D	09	254	1.08	1.20	19		青梅総合	D	09	302	1.28	1.34	34	
		10	334	1.42	1.53	57	△ 38			10	364	1.54	1.71	77	△ 43
芦 花	D	09	328	1.39	1.71	78		葛飾総合	D	09	316	1.34	1.29	32	
		10	370	1.57	1.62	68	▲ 10			10	322	1.36	1.37	40	△ 8
大 泉 桜	D	09	251	1.06	1.04	3		東久留米総合	D	09	222	0.94	1.11	9	
		10	241	1.02	1.09	8	△ 5			10	276	1.17	1.38	40	△ 31
板橋有徳	D	09	231	0.98	1.26	28		世田谷総合	D	09	184	0.78	1.47	51	
		10	186	0.79	1.05	4	▲ 24			10	256	1.08	1.33	34	▲ 17
飛 鳥	D	09	174	0.74	1.05	3		町田総合	D	10	210	0.89	1.06	3	新設
		10	240	1.02	1.30	37	△ 34			09	272	1.30	1.71	71	
忍 岡	D	09	166	1.06	1.49	33		科学技術	D	10	253	1.20	1.44	43	▲ 28
		10	153	0.98	1.26	17	▲ 16			多摩科学技術	C	10	182	0.87	1.10
翔 陽	C	09	165	0.70	1.45	54		千 早	D	09	210	1.00	1.15	20	
		10	177	0.75	1.20	19	▲ 35			10	227	1.08	1.28	39	△ 19
上 水	C	09	313	1.33	1.44	46		大田桜台	E	09	95	0.68	1.07	4	
		10	313	1.33	1.43	45	▲ 1			10	116	0.83	1.21	13	△ 9
芝 商 業	D	09	188	0.90	1.01	1		産業技術高専	C	09	321	1.00	1.65	123	
		10	216	1.03	1.05	6	△ 5			10	296	0.93	1.47	95	▲ 28

レベルは「進研Vもぎ」の合格基準による区分。A…800点以上、B…700～800点、C…600～700点、D…500～600点、E…500点未満

# センター変更の前年で動きは少ない

## —2011年入試変更点速報

### ●センター試験「地歴・公民」「理科」の1コマ化の前年で大幅変更は少ない

10年度入試は既に本番に突入しており、これからの情報は11年度入試に関するものが中心になる。国公立大入試の変更点は、前年の10月あたりから次年度に関する情報が出始めるのが通例だが、今回は少し遅かった。そのいちばん大きな理由は、新型インフルエンザにどう対応するかという問題に追われたためだと思う。国立大学だけでなく、公立・私立を含めて調整・対策が検討され、追試を行うなら新たな問題を用意しなければならないという事態も想定されたからだ。

さらに12年度入試からセンター試験における「地歴・公民」「理科」の1コマ化という大きな変更点を控え、11年度では大きな変更は出しにくいという事情もあった。つまり、変更点そのものが少ないか、あったとしても学部・学科単位の微調整的なレベルになりやすいので、個別の変更がやや五月雨的に出てきた感じがする。

いずれにせよ11年度の入試情報は、各大学のホームページでの掲載が遅れたため、こちらがチェックを開始する時期も遅くなった。まだ作業中の段階なので、今回は東京以北の国公立大と首都圏の主要私大に限って、速報的なデータをお届けする。

このように大きな変更点が少ない11年度入試で際立っているのは何と言っても北大だろう。すでに何度か大きく報じられているが、従来の学部別入試を、学部別入試と総合入試の2本立てで実施する。特に理系は1027名が総合入試で、数学重点(130名)、物理重点(235名)、化学重点(235名)、生物重点(177名)、総合科学(250名)の5群に分けて選抜する。文系の総合入試は100名。学部別入試は、文系4学部(文・法・経済・教育)のほか、医・歯・獣医・水産、計8学部で実施される。これに伴って、従来行ってきた、経済・教育・理(数学)・薬・農のAO入試は廃止される。北大は翌12年度もセンターで当初、「公民」4単位科目を指定する(11月に撤回)など、大きな変更が相次いでいるが、旧帝大系のなかでは東大・京大に次いで全国から志願者が集まるので影響も大きい。

ここ数年変更が多い医学部は、表以外の地域でも、全国的傾向として、地域枠のさらなる拡大、後期廃止、科目変更などの動きが相変わらず続いている。そんななかで山梨大医が前期を廃止して、後期のみにしたことが注目される。前期本命でのぎを削った受験生の落武者の受け皿と考えれば、これは現実的な決断と言えるだろう。医学部については国が従来の方針をはっきり転換して、特別枠などの増員を打ち出しているのだから、単なる変更点とは別の視点で論じる必要があるだろう。

★2011年度入試・主要変更点一覧

●国立大学				
大 学	学 部	学 科	変 更 内 容	
北 大	全 学 部		・総合入試(文系100名、理系1027名) ・学部別入試は、文・教育・法・経済・医・歯・獣医・水産の8学部で実施する。 ・理系の総合入試は数学重点、物理重点、化学重点、生物重点、総合科学の5つに分けて募集。	
	教育・経済・農・理—数学、薬		AO入試を廃止する。	
	教 育		・個別試験後期の2段階選抜(足切り)の条件を撤廃する。 ・個別試験後期でセンターの成績を利用する。300点満点=国60点・数60点・地歴50点・公民30点・理40点・英60点	
	工		2段階選抜を廃止する。	
	医	医	医	・後期日程を廃止する。 ・AO入試を導入する。 ・前期試験の第1段階選抜の倍率を3.5倍から5倍にする。 ・個別試験前期に面接が加わる。
			保健(看護・作業療法)	・後期日程を廃止する。 ・AO入試を導入する。
			保健(放射線)	センター後期で理科が「化学・生物→1」となる。
		保健(放射線・検査技術・理学療法)	個別試験後期で小論文がなくなり、面接のみとなる。	
北海道教育大	旭 川	芸 術(美術)	後期日程を廃止する。前期7名、推薦3名となる。	
岩 手 大	農	動 物 科	募集人員の割合を変更する。「前期20・後期5」→「前期22・後期3」	
山 形 大	地域教育文化	文化(文化スポーツ)	センター前期が5教科7科目から5教科5科目になる。	
	工	電 気 電 子	推薦入試Ⅰ(センターを課さず)を導入する。面接(口頭試問あり)。	
		バ イ オ 化 学	・センター後期が5教科7科目になる。 ・個別試験前期が「面接」から「理科」(化学)になる。	
		物 質 化 学	個別試験前期が「面接」から「理科」(物理・化学→1)になる。	
	農	食 料 生 命 環 境	個別試験前期で「小論文」が学科試験になる。「数ⅠA数ⅡB・化学・生物→1」。	
医	医	個別試験前期で英語・国語が加わり、5教科になる。		
筑 波 大	社会・国際学群	社 会 学 類	後期日程を廃止する。	
	医	医	募集人員の割合を変更する。「前期60・地域枠5」→「前期58・地域枠7」	
宇 都 宮 大	工	情 報 工	推薦入試Ⅱを廃止し、後期日程を実施する。センター5教科7科目で個別試験なし。	
		建 設	センター(前・後期)で理科の科目指定がなくなり、2科目になる。	
		応 用 化 学	センター後期で理科が「理総B・物・化・生・地→1」から「理総A・理総B・化・生→1」となる。	
	農	農 業 経 済	専門高校・総合学科枠の推薦入試を実施する(センター課さず)。	
群 馬 大	医	医	個別試験前期で数学に「数Ⅰ」が加わり、配点が100点から150点になる。	
埼 玉 大	工	情 報 シ ス テ ム	AO入試を実施する(5名)。	
千 葉 大	教 育	小 学 校	AO入試の2次選考で「小学校交流体験試験」が「集団交流活動試験」になる。	
	理	数 学 ・ 情 報 処 理	募集人員の割合を変更する(前期35・後期10→前期30・後期15)。	
	看 護		個別試験前期で学科試験(英語・理科)が加わる。	
お茶の水女子大	理	生 物	個別試験後期で小論文・面接を課す。	
山 梨 大	教 育 人 間 科	生 涯 ( 芸 術 運 営 )	個別試験後期で小論文がなくなる。	
	医	医	前期日程を廃止、後期(75名)のみとなる。	
		看 護	・後期日程を実施し、推薦枠が増える。募集人員は「前期45・推薦15」→「前期35・後期5・推薦20」となる。 ・センター前期で5教科7科目が6科目になる(理科が1科目)。	

●公立大			
大 学	学 部	学 科	変 更 内 容
首都大学東京	健康福祉	放射線	個別試験前期で小論文がなくなり、面接と数学になる。
	都市教養	経営学系	前期定員を分割し、前期B方式を導入する。個別試験は英語・数学(数ⅢCを含む)。
●私立大学			
青山学院大	文・教育・人間・経済・法・経営・国際政治経済		履修キャンパスが、2年次より青山キャンパスとなる。
大妻女子大	人間関係	社会・臨床心理	センター利用で地歴・公民の選択が不可になる。
駒澤大	文	地 理	一般入試で理科の選択が不可になる。「英・国・『数・地歴・公→1』」の3科目。
上智大			聖母大と合体して募集する。
成蹊大	経 済		一般入試で「国語」に現代文が加わる。「『国語総合』(近代以降の文章)・現代文」となる。
中央大	文		一般入試で「地理」の選択が不可になる。
東京理科大	理	応 用 物 理	3年次から葛飾キャンパスで履修となる。2013年より、4年間葛飾キャンパスの予定。
	工	建 築 ・ 電 気 ・ 機 械	
	基 礎 工		
日本女子大	文		一般入試で「地理」の選択が不可になる。
明 治 大	経 営		一般入試で「地理」の選択が不可になる。
	理 工	情 報 科 学	センター前期で国語がなくなり、3教科になる。
早 大	国 際 教 養	機 械 工	A O入試を廃止する。
			センター利用で個別試験を廃止する。センターのみで選抜。

## ●首都大学東京の都市教養（経営学系）が前期分割募集

このほかで目についたのは首都大学東京の都市教養（経営学系）が、前期日程で定員をA・Bの2つに分割した方式を導入することである。センターは従来と変わらないが、新しいB募集は、個別試験で数学ⅢCまで課され、代わりに国語を除外しているのが特徴である。経営学は本来数学的能力をかなり必要とする分野だが、志願者を集めるため、ほとんどの大学で文系的色彩の濃い入試科目になっている。しかし、近年は工学部や理学部の出身者も商社や金融を目指す傾向がはっきり出ており、その点では今回の方式がどれだけ受験生を集めるか、注目される。

私立大の変更点は10年度入試が終わってから決定する大学も多いので、もう一度私立大だけの資料を作り直すつもりでいる。ここにあげた範囲でコメントすると、青山学院大文系学部の11年度入学生が、前倒しで2年次から青山キャンパスで履修する。これで青山学院大の人气がアップするのは間違いない。MARCHの勢力図がかなり変わる可能性もある。東京理科大も基礎工学部が野田キャンパスから葛飾キャンパスへの前倒し移行を始める。理系の大学でもこのように都心回帰をウリにしているあたりに、現在の大学の置かれている状況が端的に表れている。

一般入試では、中央大・日本女子大・明治大などで地歴科目の「地理」の選択不可が出てきている。